

マツ科 ヒマラヤスギ属

ヒマラヤスギ (ヒマラヤ杉)

Cedrus deodara (Roxb.) G. Don

自生環境

植栽 (学校・公園など)

原産地

ヒマラヤ西部～アフガニスタン

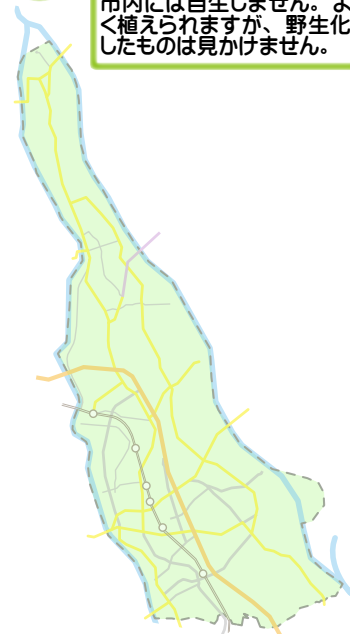
予想される被害



国内には自生はなく、すべて人の手によって植えられたものです。今のところ野生化の心配はなさそうですが、大量の花粉を飛ばすため、花粉症の原因植物になることがあります。

市内の分布状況

市内には自生しません。よく植えられますが、野生化したものは見かけません。



特徴

- ☆ スギと名がつきますが、マツの仲間です。世界じゅうで栽培される樹種で、日本には明治初期に渡来しました。原産地のヒマラヤでは、神聖な木として大切にされています。
- ☆ 成長が早く、樹高は 25m 以上にもなります。樹冠（木のとっぺん）がとがった円錐形の樹形で、遠くから見るとクリスマスツリーを連想させます。葉は緑色ですが、枝先の若葉は銀色が買っています。枝葉には独特の香りがあります。
- ☆ 花期は秋です。雌雄同株ですが、雄花の穂と雌花の穂は別々につきます。雄花が咲くと、大量の花粉が飛び散って、木の周辺は黄色い粉がうっすらと積もったようになるほどです。雌花は翌年の夏以降、大きな松かさになって目立つようになります。松かさのすき間に種子が入り、種子は多数できますが、発芽率はあまり良くないようです。

シーダーローズを探そう

ヒマラヤスギはマツの仲間ですので、大きな松かさ（いわゆる松ぼっくり）ができます。しかしこの松かさは樹上でバラバラになって降ってきます。「果鱗」と呼ばれるパーツが、軸から全部はずれてしまうのです。その際、松かさの先端部分は、複数の果鱗がまとまった状態で落ちてきます。これはまるでバラの花のように見えることから、シーダーローズとも呼ばれています。



クリスマスツリーのような樹形



葉は針状で少し銀色がかかる



雄花穂の長さは2~5cm。黄色い花粉を大量に飛ばす



松かさは翌年の夏以降、大きく目立つようになる。



松かさは樹上でバラバラになる

松かさの先端部分



乾くと開き、濡れると閉じる

乾燥

シーダーローズ

わびちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

